

月・旬	11			12			1			2			3			4			5			6
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生育	出芽期						有効分げ時期						無効分げ時期			莖立期			出穂期			登熟期
主な作業							麦踏み 麦踏み 追土肥入① (中期除草剤)						麦踏み 追土肥入②			畦溝さらえ・排水口の整備			穂揃い期追肥(小麦のみ) 赤かび病防除① 赤かび病防除②			雑草抜き 収穫
	弾丸暗渠改良・資材額の明渠渠用 種子消毒・基肥・播種初期除草剤						麦踏み・土入れは土壤が乾いているときに実施									畦溝の深さ、できるだけ深く 雑草を取り、土をたっぷり 水へ出しましょう						

1. 排水対策(②、③、④は今年の重点作業！)

麦づくりの基本は排水対策

- ①播種前に弾丸暗渠、ほ場周囲の額縁明渠施工。
- ②畝立て板装着による畝立て播種。
- ③播種後、土入れ作業の後は手作業で溝を切り、排水口につなぐ。
- ④雨の後は鍬を持って田んぼを見回り溝さらえ。水たまりを作らない。

2. 土壌改良資材

○麦(特に大麦)は酸性に弱いので『適正pH 6.0~6.5』を保つ。土壌診断を実施しましょう。

- ・土づくりも兼ねて・・・アズミン苦土石灰 100~200kg/10a
- ・後作が水稻の場合(酸度矯正 + ケイ酸補給) ケイカル、ミネラルG など 160~200kg/10a
- ・麦作のみ(酸度矯正) 苦土石灰、生石灰 など 100kg/10a

2. 播種量および播種時期

品 種	播種適期	播種量 (10a当り)	備 考
チクゴイズミ	11月15~25日	6~7kg	選播の場合は播種量を増やす
はるしずく	11月10日~12月5日	6~7kg	

3. 種子消毒

対象病害虫	農薬名	処理方法
斑葉病・網斑病(大麦) なまぐさ黒穂病 裸黒穂病	トリフミン水和剤	種子10kgに対し、薬剤50gを袋等に入れてまんべんなく粉衣する。
鳥害防止 斑葉病・網斑病(大麦) なまぐさ黒穂病 ヤギシロトビムシ(小麦)	キヒゲンR-2フロアブル	種子1kgに対し、薬剤20ccをポリ袋に入れて塗沫処理する。または、ポリ容器等に入れてかき混ぜる。

※小麦は、ヤギシロトビムシ対策として、必ず、上記どちらかの薬剤に加えて、パッサ粉剤30DLを種子10kgに対し、薬剤300gを袋等に入れてまんべんなく粉衣する。

4. 施肥基準

品 種	肥料名	基 肥	追肥 I		追肥 II		穂揃い期追肥
			1月中・下旬	2月下~3月上旬	2月下~3月上旬	4月中旬	
チクゴイズミ	スタンダード48	40kg	—	—	—	—	—
	硫 安 又は粒状石灰窒素	—	20kg	10kg 15kg	10kg	10kg	—
はるしずく	スタンダード48	40kg	—	—	—	—	—
	硫 安	—	20kg	10kg	10kg	—	—

※大豆後の基肥は施肥基準の半量程度とする。大豆の生育が良くなかった場合は大豆生育状況に応じて基肥を増やす。追肥は麦の生育状況に応じて施用する。

品種特性

(福岡県主要農作物品種特性表(H27.6月)より)

品 種	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	収量 kg/10a	耐倒伏性	赤かび病
チクゴイズミ	4.12	6.1	88	8.5	537	562	やや強	やや強
はるしずく	4.8	5.21	87	6.9	583	543	強	やや強

※播種期は、チクゴイズミ11月20~25日前後、はるしずくは11月18日~12月3日。

**1等Aランクの
高品質麦づくりを目指しましょう！**

- ①種子更新100%
- ②排水対策の徹底
- ③適期播種、適正な播種量
- ④適正な肥培管理
- ⑤麦踏み、土入れの励行
- ⑥赤かび病防除の徹底



5. 雑草防除基準

○播種前処理(雑草が多い場合はおすすめです。) (10a当り)

除草剤名	使用量	希釈水量	【注意】
ラウンドアップマックスロード	200~500ml	100ℓ	周辺の作物に飛散しないよう、注意しましょう！
プリグロックスL	600~1000ml	100ℓ	

○播種後、生育中処理

(10a当り)

薬剤名	処理時期	使用量	希釈水量	備考
初 期	バンバン乳剤	300~500cc	100ℓ	◆バンバン、ボクサーは抵抗性スズメテポウに有効。
	バンバン細粒剤F	3~5kg	—	
期	ボクサー	400~500cc	70~100ℓ	◆除草効果を高めるため、播種前の砕土や整地を丁寧に行う。
	クリアタン乳剤	500~700cc	70~100ℓ	◆雑草が生育すると効果が劣るので播種後早めに散布する。
クリアタン細粒剤F	4~5kg	—		
生育中 期	ハーモニー75DF水和剤 (イネ科および広葉)	5~10g	100ℓ	スズメテポウは5葉期まで。
期	アクチノール乳剤 (広葉のみ)	穂ばらみ期まで	100~200cc	70~100ℓ ヤエムグラは4節期まで。 カラスノエンドウは2~3葉期まで。屢着剤不可。

※ハーモニー75DF水和剤は、野菜や豆類等に薬害を生じるので注意。使用後のタンク及び散布器具は、消石灰500倍液を10分間循環させた後、20分間放置し、排水後清水で洗浄する。

6. 赤かび病防除

薬剤、麦種により使用可能な回数、収穫前日数が異なるので注意

薬剤名	希釈倍率	散布量 /10a	小麦		大麦	
			出穂後回数	収穫前日数	出穂後回数	収穫前日数
トップジンM水和剤	1,000倍	100~150ℓ	2回まで	14日前まで	1回まで	30日前まで
トップジンM粉剤DL	—	4kg	2回まで	14日前まで	1回まで	14日前まで
シルバキュアフロアブル	2,000倍	100~150ℓ	2回まで	7日前まで	2回まで	14日前まで
テルト乳剤25	2,000倍	100~150ℓ	3回まで	3日前まで	1回まで	21日前まで

※希釈倍率 1,000倍・・・水100ℓに100g(cc) 2,000倍・・・水100ℓに50g(cc)

※防除適期

小麦

1回目：開花始め~開花期 (出穂7~10日後頃*)

大麦

1回目：薬穀抽出期 (出穂12~14日後頃*)

2回目：1回目の7~10日後

*出穂後日数は目安であり、天候により前後するので注意。

7. 収穫

○収穫前にカラスノエンドウ等、異物混入の原因となる雑草を抜き取る。

○水分25~20%の間に収穫することが望ましい。(特に大麦は水分25%以下で穂首が8割以上曲がり、穀粒が黄白色になって収穫開始。)

農薬・肥料はH27.10月現在の登録に基づいて記載しています。